

日本女大家政 水沼淑子

目的および方法 関東大震災以前に横浜市は市営住宅として共同住宅館4棟と普通住宅5ヶ所を建設している。既に、共同住宅館については建設の経緯・建物の概要などを報告し<sup>1)</sup>、普通住宅については敷地・建設の経過・建設戸数などを報告した<sup>2)</sup>。本稿は普通住宅の間取りや内部の様相について、横浜市建築課の課長であり市営住宅の設計に直接携わった山田七五郎の『横浜市営住宅に就いて』と題する報告（「建築雑誌」大正11年4月号）、および「横浜市事務報告書」などの行政資料により、その特質を明らかにするものである。

結果 普通住宅の種類は甲一号（階下6/3/2、階上6/2）、甲二号（階下6/6、階上6/6）、乙一号（8/4/3）、乙二号（8/3/3）、丙号（8/6/4,5）、丁号（6/4/2）、戊号（8/6/6/2）、巳号（8/6/3）の8種あり（括弧内の数字は間取りを示し、6/2は「6畳と2畳」を表す）、規模は9.25坪から19坪に及ぶ。山田は上記の報告で、普通住宅の設計上留意した点として、畳以外にコルク敷の床を用いたこと、開口部として紙張り障子・雨戸を廃しガラス戸を採用したこと、台所は立式とし、流し・ガス台・調理台・網戸付き戸棚を備えたこと、上下別世帯が使用する住戸においても台所・便所は別に設け独立性を確保したこと、敷地の方角により居間を南面させるよう配慮したこと、規模の大きい住宅では接客重視の考えを改め客間を北側に配したことなどを挙げている。これらの留意点には当時の住宅改良運動の中で重視されていたことが見いだされ、横浜市の市営住宅の性格を考察する上で注目される。

1) 拙稿「大正10年建設の横浜市営『中村町第一共同住宅館』について」日本建築学会計画系論文報告集第369号 昭和61年11月号、「柏葉共同住宅館、中村町第二共同住宅館及び鶴町共同住宅館について 関東大震災以前の横浜市営共同住宅館に関する研究その2」日本建築学会計画系論文報告集第376号 昭和62年6月号

2) 拙稿「横浜市における関東大震災以前の市営共同住宅事業について—共同住宅館建設の背景—」日本建築学会大会学術講演梗概集昭和61年8月